

TAC

For the USCPA Exam

USCPA

Auditing and Attestation
(AUD) Vol.1



For The CPA Evolution,
Exams Scheduled
From January 1, 2024
Ver.6 問題文翻訳集

AUD 

Ver.6 問題集

for the USCPA Exam

USCPA

Principles of Auditing

(AU) Vol.1

問題文翻訳集

この問題文翻訳集は同タイトルの問題集に収録されている全文英文の問題文を日本語訳を交えて翻訳したものです。問題集を解き進める際、必要に応じてご利用ください。

USCPA 試験は英語で実施されますので、最終的には問題集本体に収録されている英文の問題を英語のまま理解できるまで習熟を図ってください。そのためこの翻訳集においても、英語でそのまま理解してほしい試験で頻出の専門用語や比較的短い語句等については、日本語に訳さず、原文の英語のまま掲載しています。

皆様が本教材を活用することによって合格を勝ち取られることを祈念しております。

TAC 米国公認会計士講座



U.S. CPA

Auditing and Attestation Vol.1

問題集 問題文翻訳集

Contents

1. Overview (1)~(6).....	1
7. Risk-Approach	7
8. Engagement	17
9. Audit Planning.....	27
10. Fraud and Noncompliance	45
11. Audit Procedures	53
12. Test of Controls and Substantive Tests 総論.....	69
13. Revenue Cycle	81
14. Expenditure Cycle	97
15. Other Transaction Cycle.....	115
Auditing Vol.1 AICPA Released MCQs	135

この問題文翻訳集は同タイトルの問題集に収録されている全文英文の問題文の日本語訳を収録したものです。問題集を解き進める際、必要に応じてご利用ください。

USCPA 試験は英語で実施されますので、最終的には問題集本体に収録されている英文の問題を英語のまま理解できるまで習熟を図ってください。そのためこの翻訳集においても、英語でそのまま理解してほしい試験で頻出の専門用語や比較的短い語句等については、日本語に訳さず、原文の英語のまま掲載しています。

皆様が本教材を活用することによって合格を勝ち取られることを祈念しております。

TAC 米国公認会計士講座

1. Overview (1)

§

6. Overview (6)

基本問題 1

- (1) 以下のうち、監査の際に準拠すべきガイダンスについて正しいのはどれか。
- a. SAS Interpretations に権威はないが、監査人の参考になるものである。
 - b. SAS Interpretations は監査基準の1つである。
 - c. Journal of Accountancy に掲載された監査に関する論文は、権威について AICPA Audit and Accounting Guides と同じ階層にある。
 - d. SAS Interpretations は、権威について AICPA Audit and Accounting Guides と同じ階層にある。
- (2) 以下のうち、Statements on Auditing Standards (SAS : 米国監査基準書) に関する監査人の責任を正しく説明しているものはどれか。
- a. 監査人は、SAS が定めるガイダンスに例外なく準拠する必要がある。
 - b. 監査人は通常、自身が精通している SAS が定めるガイダンスに準拠する必要があるが、自身が知らない規定を準拠しなくても責任は問われない。
 - c. 監査人は通常、SAS が定めるガイダンスに準拠する必要がある。ただし、ガイダンスの準拠が費用対効果が低い監査につながる場合はその限りではない。
 - d. 監査人は通常、SAS が定めるガイダンスに準拠する必要がある、準拠しない場合はその正当な理由を説明できる必要がある。

基本問題 2

- (1) 以下のうち、最も説得力のある監査証拠はどれか。
- a. 事前に連番が振られた顧客の発注書フォーム
 - b. 費用配分の根拠となる顧客の作業表
 - c. 顧客から入手した銀行明細書
 - d. 顧客の **Representation letter**
- (2) 以下のうち、監査証拠の信頼性について正しいのはどれか。
- a. 外部から間接的に入手した情報は最も信頼できる監査証拠である。
 - b. 信頼性がある監査証拠は、**Persuasive**（説得的）よりも **Conclusive**（確信的）であるべきである。
 - c. 監査証拠の信頼性とは、入手した裏付けとなる証拠の量を意味する。
 - d. 有効な内部統制システムは、監査証拠の信頼性をより高める。
- (3) 以下のうち、最も信頼性の高い証拠を生み出す手続はどれか。
- a. 試算表の **Scanning**（通査）
 - b. 顧客企業従業員の聞き取り
 - c. **Retained earnings** の期首残高と期末残高の比較
 - d. 貸倒費用の再計算

基本問題 3

- (1) 他の全ての条件が同じである場合、正しいのは以下のどれか。
- a. Detective control は Preventive control より優れている。
 - b. Corrective control は Preventive control より優れている。
 - c. Preventive control と Detective control は同等である。
 - d. Preventive control は Detective control より優れている。
- (2) 内部統制に関する以下の記述のうち、正しくないものはどれか。
- a. 資産の管理と記録を1人の人物が担当すべきではない。
 - b. 取引の処理が行われる前に適切な承認を得る必要がある。
 - c. 費用対効果により、顧客はテストベースで統制を適用する場合がある。
 - d. 統制は、従業員の共謀が起きないという合理的な保証を提供する。
- (3) 財務諸表の監査において、内部統制に関する監査人の主な検討事項として正しいのはどれか。
- a. 内部統制がマネジメントの信条や経営スタイルを反映しているか。
 - b. 内部統制がマネジメントの財務諸表のアサーションに影響を及ぼすか。
 - c. 内部統制が資産へのアクセスに対して適切な保護対策を提供しているか。
 - d. 内部統制がマネジメントの意思決定プロセスを強化するか。

基本問題 4

(1)適切な職務の分離は、1人の従業員が以下のどれを同時に行う機会を減少させるか。

- a. 現金収支の仕訳記入と財務諸表の作成
- b. 内部統制の監視と統制が意図した通りに機能しているかの評価
- c. 新しい会計基準の適用と取引計上の承認
- d. 通常の業務を行う過程での不正取引の記録と不正取引を隠ぺいする者

(2) 内部統制の目的に含まれるのは以下のどれか。

	<u>情報と通信</u> <u>システム</u>	<u>報告の信頼性</u>	<u>業務の有効性と</u> <u>効率性</u>
a.	Yes	Yes	Yes
b.	No	Yes	No
c.	Yes	No	No
d.	No	Yes	Yes

基本問題 5

- (1) 企業内の内部統制の確立、維持、監視の責任者は誰か。
- a. 会計部門
 - b. 内部監査人
 - c. マネジメント
 - d. 外部監査人
- (2) 内部統制が関係するのは以下のどれか。
- a. 企業全体
 - b. 企業の業務部門
 - c. 企業のビジネス機能部門
 - d. 上記のすべて
- (3) 以下のうち、財務諸表監査と最も関連が薄い統制はどれか。
- a. 製造における原材料の使い過ぎを防ぐ手続
 - b. 法人税規則の遵守に関連する方針
 - c. データファイルへのアクセスを制限するためのコンピュータパスワードの使用
 - d. 差異の分析評価に使われる生産統計データの生成

7. Risk-Approach

基本問題 1

(1) SAS は、監査人が個別の勘定残高レベルで監査リスクを考慮することを義務付けている。その際、監査人が考慮する必要のある監査リスクモデルの構成要素は何か。

- a. 統制リスク、重要性および発見リスク
- b. 固有リスク、発見リスクおよび重要性
- c. 固有リスク、統制リスクおよび発見リスク
- d. 重要性、統制リスクおよび固有リスク

(2) 以下のうち、監査リスクの構成要素について正しいのはどれか。

- a. 固有リスクは計量的にのみ評価される場合がある。
- b. 固有リスクは非計量的にのみ評価される場合がある。
- c. 固有リスクと統制リスクは計量的または非計量的に評価される場合がある。
- d. 固有リスクは、最小値と最大値のみを見る必要がある。

(3) 重要性の基準値を低くした場合にどのようなことが起きるか。

- a. 確認するサンプル数の減少
- b. 期末前の棚卸立会いの実施
- c. 裏付けを確認する現金支出の件数の増加
- d. 検証する勘定数の減少

(4) 監査人の標準的な監査報告書には以下の記述が含まれる。

我々は、米国で一般に公正妥当と認められている監査基準に従って監査を実施した。当該基準は、財務諸表に重要な虚偽の表示が無いかどうかについて合理的保証を得るために、我々が監査を計画し、実施することを要求している。

Reasonable assurance（合理的保証）について正しいのは以下のどれか。

- a. 提供される保証の種類をユーザーが確実に理解しているようにする。
- b. 監査人の責任の最大範囲を表わす。
- c. 監査人の財務諸表との関わりを限定する。
- d. 監査リスクの存在を認識する。

基本問題 2

- (1) 監査を計画する際、監査人は実施される監査手続の詳細を含む監査手続書を作成することが義務付けられている。以下のうち、監査手続書について正しいのはどれか。
- a. 監査手続書には、それぞれの監査目標に対して個別の監査手続を含める必要がある。
 - b. 貸借対照表の各勘定または分野に関する監査手続書には、詳細な監査手続を含める必要がある。
 - c. 監査手続書には、監査目標の達成を可能にするのに十分な数の監査手続を含める必要がある。
 - d. 監査手続書は標準化されたフォーマットに従って作成する必要がある。

基本問題 3

- (1) 集積して評価した監査証拠に基づき、監査人は当初の計画よりも重要な虚偽表示の評価リスクを引き上げることを決めた。当初計画された監査リスク水準と実質的に同じ程度の全体監査リスク水準を達成するため、監査人が行うのは以下のどれか。
- a. Substantive testing の減少
 - b. 発見リスクの引き下げ
 - c. 固有リスクの引き上げ
 - d. 重要性水準の引き上げ
- (2) 以下のうち、重要性について正しくないのはどれか。
- a. 重要性の概念は、GAAP に準拠した財務諸表の適正な表示において重要な項目もあれば、そうでない項目もあるという点を認識している。
 - b. 監査人は、監査計画の目的上、それぞれの財務諸表に含まれる重要な影響を及ぼす可能性のある虚偽表示の総計額のうち最大なものに基づき重要性を検討する。
 - c. 重要性の判断は周辺状況を踏まえて行われ、必然的に金額的および質的判断の両方がある。
 - d. 監査人の重要性の検討は、財務諸表を利用する合理的な人物のニーズに関する監査人の認識の影響を受ける。

基本問題 4

- (1) Green CPAs の監査人である Jacob は XYZ Co. の監査を行っている。Green CPAs は重要性の計算に **Average method** を用いている。この方法では、定められた次の比率に対して等しく重みをおいて重要性が計算される：税引前利益の5%、資産合計の0.5%、資本の2%、収益の1%。以下は、XYZ の財務諸表の抜粋である。

収益	\$505,000	税引前利益	\$150,000
資産	\$350,000	負債	\$75,000

上記を踏まえると、Jacob が XYZ Co. に適用すべき全体としての重要性の金額はいくらになるか。

- a. \$2,700
 - b. \$3,950
 - c. \$4,950
 - d. \$19,800
- (2) 監査計画において重要性を考える際、監査人は、総額\$10,000の虚偽表示が企業の損益計算書に重大な影響を及ぼすが、貸借対照表に重要な影響を及ぼす虚偽表示の総額は\$20,000になると考えている。通常、監査手続を設計する際、総額がいくらの虚偽表示を発見できるようにするのが適切となるか。
- a. \$10,000
 - b. \$15,000
 - c. \$20,000
 - d. \$30,000
- (3) 統制リスク評価の最終的な目的は、どのようなリスクに関する監査人の評価をサポートすることか。
- a. 運用評価手続がアサーションに関連のある手続を特定できないリスク
 - b. 重要な虚偽表示が財務諸表に存在するリスク
 - c. 職務の分離が必要となる特定の統制が共謀により迂回されるリスク
 - d. 企業の方針が経営陣により覆されるリスク

基本問題 5

- (1) 以下のうち、特定の監査に関する監査調書について正しくないのはどれか。
- a. 監査調書は、監督責任のある監査チームのメンバーが、実施される監査手続の性質、タイミング、範囲および結果を理解できるに足る内容である必要がある。
 - b. 監査調書は、監査業務を実施、レビューした監査チームのメンバーを明記する必要がある。
 - c. 監査調書は、品質管理基準の遵守を示す必要がある。
 - d. 監査調書は、監査実施基準の遵守を示す必要がある。
- (2) 監査調書の **Permanent file** に含まれる可能性が最も高い文書は以下のどれか。
- a. 今年度監査の主なスケジュール
 - b. 弁護士からの手紙
 - c. 銀行明細書
 - d. 債務契約
- (3) 監査調書の主な機能は以下のどれか。
- a. 監査報告書の主要な根拠を提供する。
 - b. **Code of Professional Conduct**（専門家としての行動規範）に関する監査人の責任を満たす。
 - c. 公認会計士事務所の品質管理活動の有効性を監視する。
 - d. 監査人が維持する独立性の水準を文書化する。

基本問題 6

- (1) 監査調書の Permanent file に含まれないものはどれか。
- a. 社債信託契約書
 - b. リース契約書
 - c. 試算表
 - d. 内部統制のフローチャート
- (2) 監査人は通常、注記を除いた財務諸表の試算表のようなものを使用する。この試算表に含まれる項目は以下のどれか。
- a. キャッシュ・フローの増減
 - b. 監査目標とアサーション
 - c. Reclassifications (組替え) と Adjustments (修正)
 - d. Reconciliations (調整) とチェックマーク
- (3) 以下のうち、監査調書の性質や範囲に影響を及ぼす可能性が最も低いものはどれか。
- a. 特定の監査手続の性質
 - b. 虚偽表示のリスク
 - c. 特定の監査手続を実施する際に必要な判断の範囲
 - d. 経営者による確認書の内容

基本問題 7

- (1) 以下のうち、GAAS に準拠した監査において必要となる文書はどれか。
- a. 企業の内部統制の有効性を評価するフローチャートまたは内部統制アンケート
 - b. 監査人が計画した field work 作業の時期と内容をまとめた経営者による確認書
 - c. 会計記録が財務諸表と一致しているという監査調書内の記載
 - d. 実施された手続とその結果の発見事項リスト
- (2) 監査調書は、以下のどれを可能にするだけの情報を含んでいる必要があるか。
- a. 過去にその Client の監査を担当した経験のある監査人が、実施された手続と入手した証拠を理解できる。
 - b. 過去にその監査と関係のない財務諸表の利用者が、実施された手続と入手した証拠を理解できる。
 - c. 財務分析の経験がある財務諸表の利用者が、実施された手続と入手した証拠を理解できる。
 - d. 過去にその監査と関係のない経験のある監査人が、実施された手続と入手した証拠を理解できる。
- (3) Documentation completion date について正しいのはどれか。
- a. PCAOB 基準に基づき、Report release date から45日以内
 - b. PCAOB 基準に基づき、Report release date から60日以内
 - c. 監査基準に基づき、Report release date から7年以内
 - d. 監査基準に基づき、Report release date から5年以内

基本問題 8

- (1) 以下のうち、GAAS に準拠した監査において必要ではない文書はどれか。
- a. 監査目標の達成に必要な手続きを定義した監査手続書
 - b. 会計記録が財務諸表と一致しているという記載
 - c. 監査人が計画した **field work** の時期と内容をまとめた監査契約書
 - d. リスク評価手続が実施されない場合の監査人の決定の根拠
- (2) 監査契約に最終責任を負う監査人とそのアシスタントの間で、監査手続の結果に関する意見の相違がある。この問題の解決に自身に関与すべきではないとアシスタントが考えている場合、この公認会計士事務所が取るべき行動は以下のどれか。
- a. アシスタントが意見の相違を AICPA の **Quality Review Committee** に持ち込めるようにする。
 - b. アシスタントが到達した結論に対する異議の詳細を文書化する。
 - c. アシスタントが意見の相違について企業の経営陣または監査委員会と議論できるようにする。
 - d. アシスタントが意見の相違を公平なピアレビュー監視チームに持ち込めるようにする。
- (3) 以下のうち、リスク評価に関して必要ではない監査調書はどれか。
- a. 重要な虚偽表示のリスクにおける監査人の評価の根拠
 - b. 企業とその環境に関する理解の主要要素
 - c. 監査人が評価した特定されたリスクと関連する統制
 - d. 監査人によるリスクの予備評価基準を定義した監査契約書

8. Engagement

基本問題 1

- (1) 監査人の監査契約書に通常含まれるものはどれか。
- a. 監査で適用される予定の監査手続の議論
 - b. 監査を実施する監査人のリスト
 - c. 提供されるサービスの性質と範囲
 - d. 不正および誤謬が発見されるという保証
- (2) 以下のうち、CPA が新たな監査契約を引き受けない理由として最も考えられるものはどれか。
- a. 監査契約締結前の Client が顧問弁護士への照会を許可しようとししない。
 - b. 前任監査人の監査調書をレビューできない。
 - c. 監査契約締結前の Client の業務および業界に関して CPA が理解していない。
 - d. 経営陣が主要職位の従業員について採用前に調査を実施していない。

基本問題 2

- (1) 監査人の監査契約書に含まれるべきものはどれか。
- a. 有効な内部統制の維持に対する責任を経営陣が認識している旨の説明
 - b. 監査人による、不正な財務報告から生じる虚偽表示に関するリスク要因の予備的評価
 - c. 従業員が犯した違法行為に対する経営者の責任を喚起するもの
 - d. 訴訟、請求、賦課を特定する際に Client の弁護士に連絡する許可の申請
- (2) 以下のうち、財務諸表監査が実施できないと監査人が結論づけるほど深刻な懸念事項は以下のどれか。
- a. 経営陣が IT の変化に対し、所定の内部統制を修正しなかった。
 - b. 職務の分離が必要な内部統制活動を経営陣がほとんど監視していない。
 - c. 経営陣は、過半数株主である1人の人物が支配している。
 - d. 会計方針の意図的な誤用について相当なリスクがある。

基本問題 3

- (1) 以下のうち、CPA が新たな監査契約を引き受けない理由として最も考えられるものはどれか。
- a. 監査契約締結前の Client が既に実地棚卸を終えている。
 - b. CPA は、監査契約締結前の Client の業務および業界に関して理解していない。
 - c. CPA が前任監査人の監査調書をレビューできない。
 - d. 監査契約締結前の Client が CPA に全ての財務記録を開示しようとししない。
- (2) 以下のうち、CPA が新たな監査契約を拒否すべきと結論づける理由として最も考えられるものはどれか。
- a. 計上された大半の取引の詳細が、一定の期間経過後に入手できない。
 - b. 職務の分離が必要となる内部統制活動が経営陣により覆される可能性がある。
 - c. 財務諸表に関する意見をサポートするのに十分かつ適切な証拠が入手できない可能性がある。
 - d. 経営陣は、重要な会計問題について複数の会計事務所に相談しているという噂がある。

基本問題 4

- (1) 以下のうち、CPA が新たな監査契約を引き受けない理由として最も考えられるものはどれか。
- a. 監査契約締結前の Client の内部監査人が使用するコンピューターを使った監査手法について、CPA が理解していない。
 - b. 適切な内部統制環境を維持するという責任を経営陣が無視している。
 - c. CPA は、関連当事者取引が独立当事者間取引と同じ条件で行われたかを判断することができない。
 - d. CPA が期末前の Substantive test を実施することを経営陣が拒否している。
- (2) 以下のうち、監査人の監査契約書に通常含まれるものはどれか。
- a. 企業の法令遵守に関する経営陣の責任
 - b. 重要性に関する予備的判断を行う際に検討すべき要素
 - c. 従業員が犯した違法行為に対する経営陣の副次的責任
 - d. 重大な内部統制の欠陥を探す監査人の責任

基本問題 5

- (1) 新規顧客の監査契約を受諾する前に CPA が入手する必要のあるものはどれか。
- a. 監査契約締結前の Client の業界および事業に関する理解
 - b. 監査契約締結前の Client による、経営者による確認書への署名
 - c. 監査契約締結前の Client の統制環境に関する予備的理解
 - d. 必要であれば前任監査人に照会することへの Client の同意
- (2) 以下のうち、財務諸表監査が実施できないと監査人が結論づけるほど深刻な懸念事項は以下のどれか。
- a. 企業が正式な行動規範を作成していない。
 - b. 企業経営陣の誠実性に問題がある。
 - c. 職務の分離が必要な手続が経営陣により無視される可能性がある。
 - d. 経営陣は状況の変化に対し、所定の統制を修正しない。

基本問題 6

(1) 後任の監査人が前任監査人に照会する可能性が最も高い項目は以下のどれか。

- a. Client の業界特有の会計方針
- b. Client の内部監査スタッフの能力
- c. サンプルング手続実施にまつわる不確実性
- d. 監査手続をめぐる経営陣との意見の不一致

(2) 以下のうち、監査人の監査契約書に含まれる可能性が最も低い記述はどれか。

- a. 我々のサービスの報酬は通常の1日当たりの料金に基づいており、それに交通費とその他経費が含まれる。
- b. 監査の過程において、我々は貴社の業務で節約できる部分または統制の改善点について提案を行う可能性がある。
- c. 我々の契約は、横領を含む重大な誤謬または不正が発見されないというリスクが存在する。
- d. 予備的な分析的手続を実施後、我々は監査契約を完了する上で必要と考えるその他手続について貴社と話し合う予定である。

基本問題 7

- (1) 以下のうち、企業の財務諸表を監査できるかに関する監査人の判断に影響を及ぼす要因はどれか。
- a. 財務報告に関する情報システムの複雑さ
 - b. 関連当事者間取引の存在
 - c. 会計記録の妥当性
 - d. 統制の運用上の有効性
- (2) CPA である Hill は、Monday Co.の財務諸表を監査するために雇われた。Monday の前任の監査人である CPA の Post は、Monday により契約終了が通知された。これらの状況を踏まえると、Hill と Post のやり取りを始めるのは誰であるべきか。
- a. 後任の監査人である Hill
 - b. 前任の監査人である Post
 - c. Monday の経理担当管理者または CFO
 - d. Monday の取締役会長

基本問題 8

- (1) 監査契約を引き受ける前に、後任の監査人が前任の監査人に照会すべき項目は以下のどれか。
- a. 前任監査人の監査報告書発行後に発生した事象に関する前任監査人の意見
 - b. 監査人変更の理由に関する前任監査人の理解
 - c. 会計期間と会計期間の間における GAAP 適用の継続性に関する前任監査人の認識
 - d. 会計上継続的に重要性のある全ての項目に関する前任監査人の評価
- (2) 以下のうち、CPA が新たな監査契約を引き受けない理由として最も考えられるものはどれか。
- a. 企業の内部統制に関する理解が十分ではない。
 - b. 企業の会計年度末が近づいている。
 - c. 企業の経営陣に誠実性がないという結論に達している。
 - d. 監査契約を引き受ける前に予備的な分析的手続を実施することができない。

基本問題 9

- (1) 新規顧客の監査を引き受ける前に監査人が行う必要のあるのは以下のどれか。
- a. 監査契約締結前に **Client** の同意を得たうえで前任監査人に問い合わせを行う。
 - b. 監査契約締結前の **Client** および内部統制を含むその環境について理解する。
 - c. 監査に必要となる人員や予備的な監査計画を定めたメモを作成する。
 - d. 監査契約締結前の **Client** の監査委員会と、経営者による確認書について話し合う。

9. Audit Planning

基本問題 1

- (1) 統制環境の理解を得る際、監査人は長所と短所の両方を検討する。以下のうち、このような検討について正しいのはどれか。
- a. 支配的な CEO の存在は、複雑な情報システムにより抑制される可能性がある。
 - b. 経営者の積極的な経営スタイルは、活動的で独立した取締役会により抑制される可能性がある。
 - c. 中小企業における職務の分離の欠如は、実際に行われる取引の数が少ないと抑制される可能性がある。
 - d. 利益を過大計上する経営者の偏見は、能力のある会計スタッフを確実に雇用するという人事方針により抑制される可能性がある。
- (2) 監査を行う際、監査人が理解する必要のある項目はどれか。
- a. 財務諸表の各勘定残高、取引クラスおよび開示内容に関連する統制活動
 - b. 財務報告に関連する全ての統制活動
 - c. 監査の計画に関連する統制活動
 - d. 他の監査手続を実施する際に監査人が気づいた統制活動のみ
- (3) 監査人が内部統制を検討する際、検討項目に含める必要のあるものはどれか。

	<u>統制の設計</u>	<u>統制の実際の運用</u>
a.	Yes	Yes
b.	Yes	No
c.	No	Yes
d.	No	No

基本問題 2

- (1) 内部統制の構造を理解した後に監査人が行う必要のあるものはどれか。
- a. 統制リスクの評価が計画された際にその理解を文書化する。
 - b. 理解するために行った作業を文書化するが、理解した内容を文書化する必要はない。
 - c. GAAS の遵守を反映するために自身の理解を文書化する。
 - d. テストされる統制を含む全ての統制を文書化する。
- (2) 現場責任会計士である A. Lincoln は、ロッククライミング器具の販売を手がける Rocks Rock, Inc. の監査に向けた準備をしていた。最初のステップとして、内部統制の構造を理解する必要がある。そのために Lincoln が実施する可能性が最も高いものは以下のどれか。
- a. 販売取引のサンプルを選び、与信承認のサインをレビューする。
 - b. 実地棚卸に立ち会う。
 - c. 販売商品の出荷方法および売上の計上方法について会計責任者に問い合わせる。
 - d. 継続中の訴訟について経営陣に問い合わせる。
- (3) 以下のうち、監査人が棚卸資産の統制を理解するために実施すると考えられる手続はどれか。
- a. 製品群ごとの総利益分析を作成する
 - b. 実地棚卸の立会い
 - c. 在庫出荷の計上に関する会社方針のレビュー
 - d. 購買に関する統制のテスト実施する

基本問題 3

- (1) 以下のうち、監査人が負わない責任はどれか。
- a. 財務諸表に重要な虚偽表示がないという合理的な保証を得るための監査の計画
 - b. 財務諸表が **GAAP** に従って適正に表示されているという合理的な保証を得るための監査の実施
 - c. 財務諸表の表示と適切な内容であることの保証
 - d. 財務諸表に対する意見の表明
- (2) CPA である B. Boop は監査の最初のフェーズを完了した。以下の作業はどの手順で実施されたか。
- I. 統制リスクの予備的評価の完了
 - II. 運用評価手続の実施
 - III. 内部統制の理解
- a. III, II, I.
 - b. I, II, III.
 - c. II, I, III.
 - d. III, I, II.
- (3) 内部統制の構成要素である情報とコミュニケーションは何から構成されるか。
- a. 企業の目標に関連のある全ての情報システム
 - b. 財務報告の目的に関連のある全ての情報システム
 - c. 企業の経営目標に関連のある全ての情報システム
 - d. 取引処理を直接行う情報システムのみ
- (4) CPA の G. Washington は、内部統制の構造を理解するのに必要な手続を完了した。この知識は何のために使われるか。
- a. 経営陣の誠実性に関する懸念が、規制当局への連絡が必要になるほど深刻であるかを判断する。
 - b. 虚偽表示が発生する可能性のある分野を特定する。
 - c. 統制リスクの評価レベルをさらに引き下げる際のサポートをする。
 - d. 特定された統制の運用上の有効性を評価する。

基本問題 4

- (1) 以下のうち、内部統制に内在する固有の限界と考えられる要素はどれか。
- a. 情報処理システムの複雑さ
 - b. 意思決定プロセスにおける人間の判断
 - c. 取締役会の無効性
 - d. 統制環境を改善するという経営者の動機の欠如
- (2) 以下のうち、経営者が効果的に企業活動を監視するのに役立つ手法はどれか。
- a. 規制当局が定めた内部統制要件の遵守の監視
 - b. 物理的な分離と保護装置の使用による資産への直接アクセスの制限
 - c. 予想との差異を識別するための予算と予測の策定
 - d. 従業員が職務を果たすのに必要な資源を提供することによる従業員の支援
- (3) ガバナンスの責任者（企業の取締役会など）の内部統制の重要性に関する姿勢と自覚は、通常以下のどれに反映されるか。
- a. コンピューターを使った統制
 - b. 職務の分離の体制
 - c. 統制環境
 - d. 資産へのアクセスに関する安全策

基本問題 5

(1) 以下のうち、監査の計画段階で CPA が通常検討する項目はどれか。

- I. 虚偽表示が存在する可能性のある財務諸表の勘定
 - II. 監査テストの拡張が必要となる状況
- a. Iのみ
 - b. IIのみ
 - c. IとII
 - d. IでもIIでもない

(2) 監査人が監査計画書を作成する目的は以下のどれか。

- a. 全ての重要な取引が **Substantive test** の対象として選ばれるようにするため。
- b. 貸借対照表日前に行われる **Substantive test** を最小限にするため。
- c. 選ばれた監査手続が監査目的を達成するようにするため。
- d. 各勘定残高が運用評価手続または取引テストにおいてテストされるようにするため。

基本問題 6

- (1) 監査を計画する際に **Client** の継続事業について理解するため、監査人が通常行うと考えられるものはどれか。
- a. 取引と残高に対して詳細テストを実施する。
 - b. **Client** の前年の監査調書と **Permanent file** をレビューする。
 - c. **Client** の業界の専門誌を読む。
 - d. **Client** の内部統制環境を再評価する。
- (2) 監査人が新規顧客の事業と業界に関する知識を得る目的は以下のどれか。
- a. **Client** の内部統制の改善に関する建設的な提案を行う。
 - b. 経営者の財務諸表のアサーションに関して、**Professional skepticism**（職業専門家としての懐疑心）を持つ。
 - c. 明らかになっている虚偽表示の集積により財務諸表に全体として重要な虚偽表示が生じているかを評価する。
 - d. **Client** の財務諸表に影響を及ぼす可能性のある事象や取引を理解する。

基本問題 7

- (1) 監査人が文書化する必要があるのは、以下のどれに関する監査人の理解か。
- I. 経営者の指示が実行される上で役立つ企業の統制活動
 - II. 監査人が監査を計画する上で役立つ企業の統制環境
- a. Iのみ
 - b. IIのみ
 - c. IとII
 - d. IでもIIでもない
- (2) Client と内部統制を含むその環境を理解する際、監査人が得る必要のある知識は以下のどれか。
- a. 5つの内部統制の各構成要素における財務報告に関連する内部統制の設計
 - b. 実施されている内部統制の有効性
 - c. 内部統制の現在の適用に関する一貫性
 - d. それぞれの主要な取引のクラスと勘定残高に関する統制
- (3) 監査を計画する際、監査人は既存の内部統制について十分な理解を得た。以下のうち、こうした知識を得る主な目的に含まれないのはどれか。
- a. 重要な虚偽表示の種類を特定する。
 - b. 重要な虚偽表示のリスクに影響を及ぼす要因を検討する。
 - c. 改善に関する建設的な提案を Client に行う。
 - d. 有効な Substantive test を設計する。

基本問題 8

(1) 内部統制の構成要素に含まれるものはどれか。

	<u>統制環境</u>	<u>監視活動</u>	<u>情報と コミュニケーションシステム</u>	<u>リスク評価</u>
a.	Yes	No	No	Yes
b.	No	No	Yes	Yes
c.	Yes	Yes	Yes	Yes
d.	No	Yes	No	No

(2) 以下のうち、財務諸表監査で必要となるものはどれか。

- a. 企業の各オペレーティングユニットに関連する内部統制の理解
- b. 企業の各事業機能に関連する内部統制の理解
- c. 企業の財務報告の目的に関連する内部統制の理解
- d. 企業のコンプライアンスの目的に関連する内部統制の理解

基本問題 9

(1) 新規顧客の監査を計画する際、監査人は会計情報の処理方法を考慮する可能性が高い。その理由として正しいのはどれか。

- a. その方法は内部統制の設計に影響を及ぼすため。
- b. その方法は重要性に関する監査人の予備的評価に影響を及ぼすため。
- c. その方法は計画された監査目標を評価する際に役立つため。
- d. その方法は監査人が許容できる監査リスクの水準を決定するため。

(2) 以下のうち、統制環境の要素と考えられるものはどれか。

	<u>発見リスク</u>	人事方針と <u>実務</u>
a.	Yes	Yes
b.	Yes	No
c.	No	Yes
d.	No	No

基本問題 10

- (1) 監査人は内部監査スタッフの能力と客観性をレビューし、監査の業務補助を行う上で問題がないと判断した。監査人が内部監査スタッフに業務補助を依頼すると考えられる作業はどれか。
- a. 監査契約において許容できる監査リスクの水準の決定
 - b. 顧客への確認状の作成と郵送
 - c. 年金債務の適切性の評価
 - d. 経営陣の誠実性の評価
- (2) 監査人は、内部監査スタッフが担当した業務をレビューした後、特定のアサーションに対するテストを省略することができた。その理由として正しいのはどれか。
- I. 対象となる勘定の重要性がそれほど高くない。
 - II. 集められた証拠は、主観的な判断が介在することなく評価できる。
- a. Iのみ
 - b. IIのみ
 - c. IまたはII
 - d. IとII
- (3) 内部監査人の客観性を評価する際、その企業の財務諸表監査を行っている独立監査人が検討すると思われる項目はどれか。
- a. 内部監査人協会が策定した内部監査基準
 - b. 誤謬または不正を発見できる内部統制活動のテスト
 - c. 内部監査人が最近チェックした勘定の重要性
 - d. 内部監査人が最近実施した取引テストの結果

基本問題 11

- (1) 以下のうち、独立監査人が、能力と客観性を有すると評価された企業の内部監査人と責任を分担する判断はどれか。

	<u>固有リスクの評価</u>	<u>統制リスクの評価</u>
a.	Yes	Yes
b.	Yes	No
c.	No	Yes
d.	No	No

- (2) 内部監査人の客観性を評価する際に独立監査人が行う必要のあるものはどれか。

- 内部監査人を対象とした品質管理プログラムを評価する。
- 内部監査人が担当した監査業務の証拠を検証する。
- 内部監査人が検証した取引と残高のサンプルをテストする。
- 内部監査人が組織内で報告する人物の職位を決める。

- (3) 監査中に、内部監査人が独立監査人の業務補助を行う可能性がある分野は以下のどれか。

	<u>内部統制に関する</u> <u>理解</u>	<u>統制テストの</u> <u>実施</u>	<u>Substantive test</u> の <u>実施</u>
a.	No	No	No
b.	Yes	No	No
c.	Yes	Yes	No
d.	Yes	Yes	Yes

基本問題 12

- (1) 内部監査人の業務補助が影響を及ぼす可能性のある、独立監査人が実施する手続はどれか。
- I. 内部統制を理解する際に実施された手続
 - II. 重要な虚偽表示のリスクを評価する際に実施された手続
 - III. 直接的な証拠を集める際に実施された **Substantive procedures**
- a. IとIIのみ
 - b. IとIIIのみ
 - c. IIとIIIのみ
 - d. I、IIとIII
- (2) 内部監査人の業務補助が独立監査人の監査手続の性質、タイミングおよび範囲に影響を及ぼす可能性が最も高いのは、内部監査人の補助がどのアサーションに関連したものである場合か。
- a. 偶発事象の存在
 - b. 無形資産の評価
 - c. 固定資産取得の存在
 - d. 関連当事者間取引の評価

基本問題 13

(1) 内部監査人の能力を評価する際、独立監査人が入手する必要がある情報は以下のどれか。

- a. 内部監査人が組織内で報告する人物の職位
- b. 内部監査人の学歴と取得している資格
- c. 親戚が雇用されている業務の監査を内部監査人が実施できないようにする方針
- d. 機密とみなされる記録や情報への内部監査人のアクセス

(2) 内部監査人の能力と客観性を評価する際、独立監査人が入手する可能性が最も低い情報は以下のどれか。

- a. 経営者との対話
- b. 内部監査人の活動に関する外部の品質レビュー
- c. 内部監査人の過去の経験
- d. 分析的手続の結果

(3) 以下のうち、独立監査人が、能力と客観性を有すると評価された企業の内部監査人と責任を分担する判断はどれか。

	虚偽表示の <u>重要性</u>	会計上の見積りの <u>評価</u>
a.	Yes	No
b.	No	Yes
c.	No	No
d.	Yes	Yes

基本問題 14

- (1) 内部監査人の能力を評価する際、独立監査人が検討しない事項は以下のどれか。
- a. 監査調書の質
 - b. 受けた教育の水準と業務経験
 - c. 監査計画と監査手続
 - d. 関連当事者に関する情報へのアクセス
- (2) 以下のうち、監査人による Client の内部監査スタッフの活用について正しいのはどれか。
- a. 監査人は、Client から独立していない内部監査人に業務補助は依頼しない。
 - b. 内部監査人による業務補助は、外部監査人によるリスク評価に役立つ場合がある。
 - c. 内部監査人に能力と客観性があるとみなされれば、監査人は専門家としての判断が必要となる業務の補助を依頼する場合がある。
 - d. 内部監査人が担当した検証のみでは外部監査人による直接のテストを省略できない。

基本問題 15

(1) **Client** の内部監査人の能力を評価する際、独立監査人が検討すると考えられる事項は以下のどれか。

- a. 内部監査人が内部監査基準を遵守しているか
- b. 内部監査人による経営陣の給与データへのアクセスを制限する **Client** の方針
- c. 低いと評価された統制リスクを裏付ける証拠
- d. 異常な取引や事象を特定する比率分析の結果

基本問題 16

- (1) 実施されている統制と運用上の有効性のテストに関する報告書を提出するために受託会社の検証を行う際、受託会社監査人が実施する必要のない手続はどれか。
- a. 内部統制について理解する。
 - b. 潜在的な虚偽表示の種類を特定する。
 - c. 財務諸表勘定の **Substantive test** を実施する。
 - d. 経営陣から確認書を入手する。
- (2) Quick Service Center は、James Industries を初めとするあらゆる顧客の給与計算を行っている。CPA の Adams は Quick の監査人であり、CPA の Robinson は James Industries の監査人である。以下のうち、Adams が行う必要のないものはどれか。
- a. 実施された手続の範囲と性質を説明した報告書の発行
 - b. Robinson の CPA としての評判に関する照会
 - c. James Industries のような委託会社に重要な影響を及ぼす可能性のある後発事象についての経営陣への照会
 - d. Quick Service Center の経営者による確認書の入手
- (3) 受託会社が委託会社の取引の開始、実行、処理または報告に影響を及ぼすサービスを提供している場合、これらのサービスについて正しいのは以下のどれか。
- a. 委託会社の情報システムの一部とみなされる。
 - b. 委託会社の統制環境の一部とみなされる。
 - c. 委託会社の統制活動の一部とみなされる。
 - d. 委託会社の内部統制の一部とはみなされない。

基本問題 17

- (1) 監査人が受託会社の監査を行う際、監査計画の段階でその会社の内部統制について検討すべき事項は以下のどれか。
- a. 監査人は、内部統制について理解する前に統制リスクを評価する必要がある。
 - b. 監査人は、**Substantive procedures** を実施後にこの受託会社の内部統制について理解する必要がある。
 - c. 監査人は、委託会社がこの受託会社に及ぼす影響を理解する必要がある。
 - d. 監査人は、**Agreed-upon procedures** を実施するために契約される必要がある。

Principles of Auditing(AU) 一問題集 Vol.1 問題文翻訳集

2023年6月8日 初版初刷発行

編 者 TAC 米国公認会計士講座

発 行 者 多 田 敏 男

発 行 所 TAC 株式会社

〒101-8383

東京都千代田区神田三崎町3-2-18

印刷・製本 株式会社 日興印刷

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

本書は、「著作権法」によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。本書の全部または一部につき、無断で転載、複写されると、著作権等の権利侵害となります。上記のような使い方をされる場合には、あらかじめ小社宛許諾を求めてください。

Printed in Japan

For the USCPA Exam

USCPA

Auditing and Attestation

(AUD) Vol.1

TAC

For The CPA Evolution,
Exams Scheduled
From January 1, 2024
Ver.6 問題文翻訳集



093-2229-1009-12

 **BRADLEY**
University